

# 予測困難な時代を生き抜く力を 身に付けた児童の育成

～見方・考え方を働かせて思考する授業を通して～



令和4年度研究主題

## 根拠をもって伝え合うことのできる児童の育成

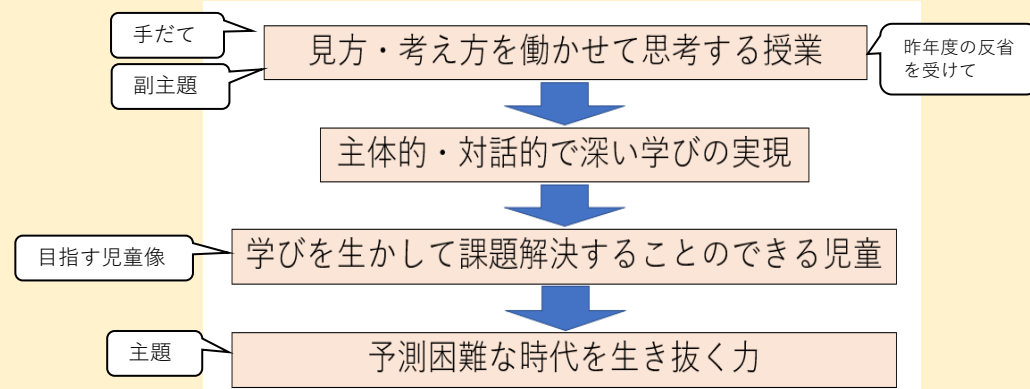
～教科等横断的な視点に立った実践を通して～



## 主題設定の経緯

- ・小学校学習指導要領より 「予測困難な時代を生き抜く力」の育成が必要である。
- ・令和4年度校内研究の反省より 本校の児童は「学んだ内容、学び方（考え方）を生かすことに課題」がある。
- ・昨今の教育課題より これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

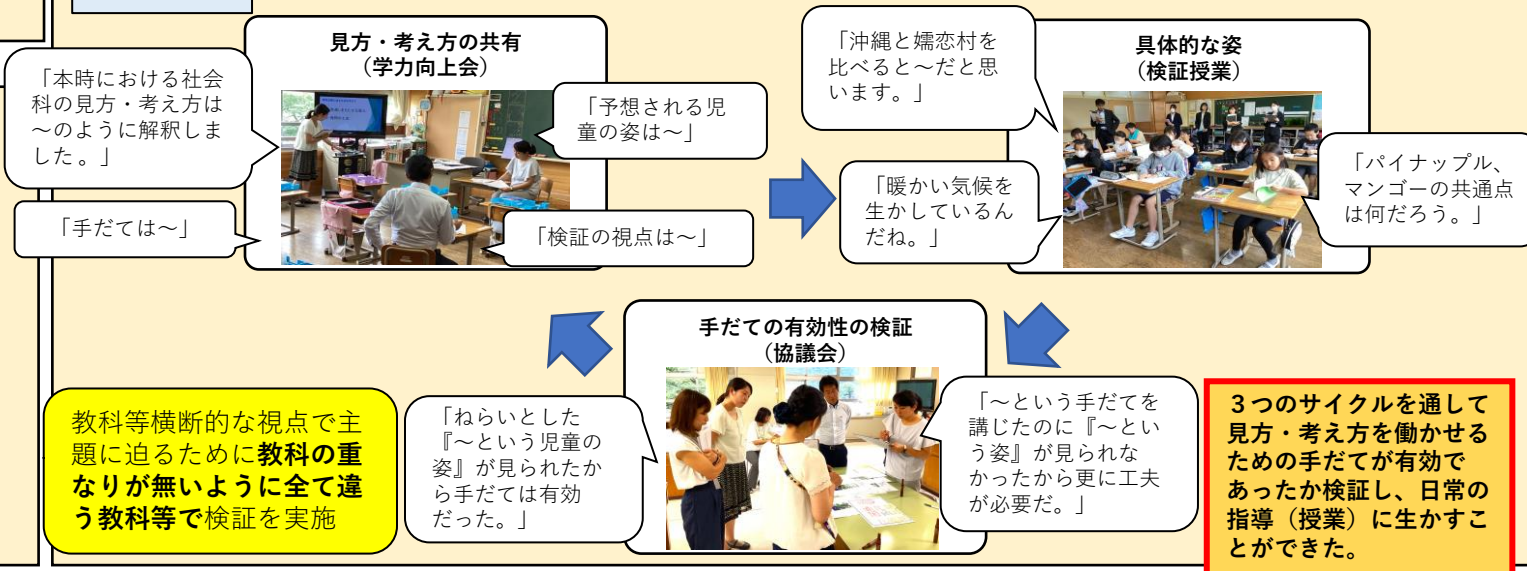
## 主題のイメージ図



## 主題の仮説

教師が「見方・考え方を働かせて思考する授業」を実践することで、児童は各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら知識・技能を相互に関連付けて、より深く思考させることに向かう「深い学び」を実現し、予測困難な時代を生き抜く逞しさを身に付けられるのではないか。

## 検証方法



## 今年度の検証授業

### 第5学年社会科「あたたかい地域の暮らし」（5月31日）

#### 手だて

- ・提示資料の工夫
- ・見方、考え方を働かせる問いの精選
- ・思考ツールの活用



#### 成果

- ・「どのような～」という発問により、「暖かいことを生かして。」「台風が多いので。」「孺恋村との逆で。」など、位置的な広がりに着目して捉えていた。
- ・「暖かい気候を生かしている。」と調べたことをクラゲチャートを生かして統一的に捉え、まとめていた。

指導案



### 第4学年算数科「小数のしくみを調べよう」（6月21日）

#### 手だて

- ・前時の学びの視覚化（学びを繋げる）
- ・算数の見方、考え方に気付かせるための問い返し
- ・自分の考えを表現するための資料提示



#### 成果

- ・「前と同じように10等分の目盛りを作ればよい。」など、小数の仕組みに注目して課題解決しようとしていた。
- ・「1.435の5は小数第二位に入る数よりも、もっと小さい位に数が入ると思う。」など、既習事項を根拠にしながら図や言葉で表現していた。

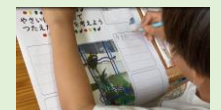
指導案



### 第2学年生活科「ぐんぐんそだてわたしのやさい」（7月5日）

#### 手だて

- ・見通しをもたせる導入の工夫
- ・具体的な考えをもたせる発問の工夫
- ・共通点や違いに気付かせる記録の活用



#### 成果

- ・児童の発言を問い返したことで、視点が絞られた。児童が考えを具体的にもっていた。
- ・動画で活動を振り返ることで「前はへにゃへにゃだったのに、ぐんぐん伸びた。」など自分の担当する野菜の発表の内容について見通しを立てていた。

指導案



### 第6学年国語科「写真と文章を結び付け、表現の工夫に気付き、表現の効果を感じよう」（9月20日）

#### 手だて

- ・学習の土台づくり
- ・問いの工夫



#### 成果

- ・「『びっしり』を使うと恐ろしい感じが伝わる。」など、言葉の使い方に着目して、効果的な表現や工夫を見つけていた。
- ・スモールステップ（学習の土台づくり）を行うことで、資料を読み返し、表現の工夫を探そうとしていた。

指導案



### 第3学年特別活動学級活動(3)「自分の目を大切にしよう」（10月4日）

#### 手だて

- ・意思決定に向けてのキーワード整理
- ・実践、自己評価カードの活用



#### 成果

- ・自分で決定したためあてを基に、「これからは明るいところで読むようにしたい。」と学びを生活につなげていた。
- ・実践カードに継続して取り組み、「休憩しながら本を読むようにしたい。」という感想をもつなど、目を大切にしようとする意識を高めていた。

指導案



### 第1学年体育科「バン！バン！シュートゲーム」（10月18日）

#### 手だて

- ・ルールづくりの工夫
- ・友達の良いところを伝え合うための工夫



#### 成果

- ・「パスをしないといけないから、今は点が入らないよ。」などと、児童がルールを意識する姿が見られた。
- ・「パスパス作戦だよ。」「カット作戦だよ。」など自己の適性に応じて作戦を考えていた。
- ・よいところを伝え合うと帽子の色を変更できる工夫を取り入れることで、自分のチームの友達の良いところを探して伝えていた。

指導案



## 協議会から見てきた「見方・考え方を働かせた授業」についてのキーワード

- ・ 問いの精選
- ・ 児童の気付きを促す問い返し
- ・ 既習を生かす展開の工夫
- ・ 学習の基盤（土台）づくり

これらを日常の授業に取り入れることで見方・考え方を他の学習に生かし、「予測困難な時代を生き抜く力」の育成を図る。

## 研究のまとめ

### 【具体的な児童の姿から見た成果】

見方・考え方を働かせる授業実践をする中で、各教科等の学習で培った見方・考え方を他の学習や行事などで生かす姿が見られた。

- ・国語科では「ごんべん」の漢字を見たときに「『話』、『語』にも『言う』という漢字があるね。言葉に関係がある漢字なのかな？」と話していた。これは、国語科で培った、言葉の意味を捉える力が生かされたといえる。
- ・月目標を決める際の話合いでは、自分たちができていないこと、苦手なことなどの課題を基に目標を立てていた。これは、特別活動で培った社会生活の構築の視点で実践に結び付ける力が生かされたといえる。
- ・年度当初の日記では「わくわくした。」「ドキドキした。」等の表現が多く見られたが、2学期に行った全校遠足の日記では「森の中でリラックスできた。みんなのペースが速かったので、今度は一人でも来てみてリラックスしたい。」と表現に変化が見られた。これは、国語科の言葉の使い方を問い直す力が生かされたといえる。
- ・学習発表会に向けた取組では、「セリフの数が12だね。」「子供の数は6人だね。」「一人2回セリフを言うことになるね。」と話していた。これは、算数科で培った事象との関係を統合して捉える考える力が生かされたといえる。
- ・ロング遊びに向けた話合いでは、学級の遊びを決めるために、校庭の砂利の部分と芝生の部分を比較し、転んでも怪我をしづらいことから芝生で遊ぶことを決めていた。これは、体育科で培った、安全の概念でリスク軽減と関連付ける力が生かされたといえる。

### 【まとめ】

今年度は、本研究の2年目であり、見方・考え方を働かせて思考する授業づくりについて学ぶことができた。昨年度から引き続き、教科等横断的な視点で研究主題に迫るために、6回の検証授業を異なる教科等で行い、見方・考え方を働かせる授業づくりについて追究し共有することができた。2年間の研究を経て「問いの精選」「児童の気づきを促す問い返し」「既習を生かす展開の工夫」「児童の実態に応じた指導」という4つのキーワードを確認することができた。これらを日常の授業に取り入れ、各教科等を関連付けて指導にあたることで、児童は見方・考え方を他の学習に生かし、「予測困難な時代を生き抜く力」の育成を図ることができると考える。

また、具体的な児童の姿を根拠にすることで、講じた手だてが目の前にいる児童に対して有効に働いたのか、そうでないのか明確に判断する経験をもてたことも大きな成果である。

本研究の取組を次年度以降の教育活動に生かし、予測困難な事態が生じたときに、これまで培ってきたことを生かして解決する児童を育成していきたい。